

疥癬対応マニュアル

1. 疥癬の病原体

疥癬の病原体となるのは、ヒゼンダニというダニです。

メスは、人の皮膚の角質層にもぐりこみ、横穴を掘りながら、卵を産みつけていきます(疥癬トンネル)。卵は、3~5日で孵化し、幼虫となって、トンネルからはい出し、2週間ほどで成虫になります。メスは、卵を産みつづけ、オスや幼虫は、皮膚表面をうろついたり、毛穴に隠れたりしています。トンネルを掘る部位としては、手が最も多く、他には、内股、わきの下、おしり等があげられます。約1ヶ月の潜伏期の後、発疹等の症状が出現します(重症型でも発症まで約1週間かかります)。

ヒゼンダニは、角質層よりも内側に侵入することはありません。発疹ができてきたり、痒くなるのは、虫体や糞に対するアレルギー反応によると考えられています。ダニに刺されるからではありません。

2. ヒゼンダニの弱点

熱・乾燥に弱い

人の肌を離れると長くは生きられない

普通の室温、湿度下では、数時間で死滅します。

人肌の温度でないと動きが鈍くなる

37℃では、1分間に2.5cm動くのに対し、16℃では動けません。

3. 感染経路

直接経路：人の肌から肌へ

間接経路：寝具、タオル等を介した感染

4. 症状・病型

病型

疥癬と重症型の角化型疥癬(ノルウェー疥癬)の2つのタイプ

	疥癬	角化型疥癬
寄生数	1000以下	100~200万
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主症状	丘疹、結節	角質増殖
部位	頭・首を除く全身	全身
痒い	強い(特に夜間)、不眠に	不定

症状

* 夜間に増強する掻痒感

* 皮疹

皮疹はいろいろあります。小さい赤いブツブツから、小結節、トンネル、角質増殖等程度によりさまざま。

* まわりに同症状の人がいることも診断上重要です。

5. 診断

問診と皮膚所見から、ある程度は診断できますが、確定診断は、皮膚の一部を採取(トンネル、皮疹、角質増殖あればその角層)し、顕微鏡にて、虫体、卵を確認します。しかし

6. 治療

ダニの駆除と痒み等の症状の緩和が治療の基本になります。

ダニの駆除: クロタミトン(オイラックス)、安息香酸ベンジル(B B)、

- B H Cなどが用いられます。これらの駆虫剤はいずれも疥癬虫そのものを殺す働きがありますが、その卵には無効です。そのため、一度の塗布ではまだ卵は生存していますので、これを殺すためには卵が孵った段階で再度塗布する必要があります。前述のように卵はだいたい三日で孵るので一度塗布した後、数日後に再度塗布します。2回の塗布により卵も含めてほぼ完全な疥癬虫の駆除が成立します。

痒みに対して: 抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤などが用いられます。

ポララミン等の内服をしたり、レスタミンコーワ軟膏を塗布したりします。オイラックスは、殺虫力と痒み止めの両方の効果があるが殺虫力は他の薬剤に比べると劣ります。リンデロン等のステロイド外用剤は、悪化させるので、急性期には原則禁忌ですが、疥癬虫が死滅したあとの痒みには大変有効です。

7. 感染拡大の防止

治療と同じくらい重要です。これをいいかげんにしていると、あっという間に疥癬患者であふれてしまいます。

患者を隔離する必要があるか?

角化型では、隔離することが望ましいとされています。

患者のいた部屋を閉鎖および殺虫剤散布し、患者は個室管理し治療します。

普通の疥癬患者では、必ずしも隔離の必要はありません。

寝具、タオル等直接体に触れるものの扱い

毎日新しいものに交換して、清潔を保つことは、疥癬対策だけでなく大切なことです。

ヒゼンダニは、熱に弱く、50℃では、10分程度で死滅するといわれています。乾燥機にかけたり、熱湯消毒することは、感染拡大防止に有効です。また、衣類等を患者のところから洗濯機等へ移動する際に、ビニール袋等に入れて運ぶとそれも感染防止となります。

お風呂は、お風呂の中で感染する可能性はほぼないのですが、脱衣所等のマット等で感染するので、患者さんの入浴は、最後にする方が良いでしょう。

患者さんに関わる人たちがダニの媒介者とならないために

長袖の予防衣や手袋の着用は、感染予防に有効です。また、処置が済んだら、すぐに脱いで、手洗いすることも重要です。大変なのはわかるのですが、一人みて、次の患者さんを見る前に、毎回、手洗いできるのが理想なのです（疥癬でなくても）。疥癬の感染拡大に一番貢献しているのは、医療従事者です。

8 . 予防的治療

軽症の疥癬の場合でも、濃厚に接触していた人は、何の徴候もなくとも感染しているものとして、治療しておくことは、本人にとっても、感染拡大を防ぐという意味でも、必要と考えます。重症の場合は、関わった人すべて予防的治療が必要です。

9 . 治癒の判定

全身をくまなく診て、**新たな疥癬トンネル・発疹の出現がなく、生きたダニがみつからないこと**をもって治癒と判定します。痒みの有無は、治癒の判定に対しては役立ちません・